



日本共産党市議会議員

おぜき栄子の

無料法律相談会
毎月第1火曜日(おぜき栄子事務所)
TEL(72)7848 FAX(71)8392

ホームページ http://www.dl.dion.ne.jp/~smileiko
Eメール smileiko@dl.dion.ne.jp

にこっと通信

第104号

2017年1月22日(日)

足利市田中町789
第3石川ビル3階
市議会議員
おぜき栄子

戦争法(安保法制)
は廃止へ!



市議会議員
おぜき栄子

昨年、皆さんにとつてどのような年だったでしょうか。私は、昨年の参議院選挙、知事選挙で野党共闘によって、この保守の強い栃木県でたかことができたことに大きな希望が湧いてきました。政治は変えられると実感しました。安倍政権を一日も早く退陣に追い込み、野党連合政権を樹立させるためにあらゆる手立てを尽くしましょう。

今年も現場第一主義で市民の生活を一步でも二歩でもと前進めるために全力投球です。今年もよろしくお願いします。

2016年12月議会 おぜき栄子の賛否

議案No	内容	賛否
第6号	市職員の給与に関する条例の改正	○
第7号	一般会計補正予算(2号)	○
第8号	市職員の退職手当条例の改正	○
第9号	市税条例等の改定	×
第10号	一般会計補正予算(3号)	○
第11号	市長および市議の選挙運動の公費負担条例の改正	○
第12号	市国民健康保険補正予算(2号)	○
第13号	市下水道事業特別会計補正予算(2号)	○
第14号	工事請負契約について	○
第15号	市営住宅条例の改正	○
第16号	農業委員および農地利用最適化推進委員条例	×

医療費控除

家族全員が支払った医療費1年間(1月~12月)10万円(所得金額が200万円未満の人は「所得金額×5%」の額)を超えた場合、その超えた金額を所得から差し引くことができます。

医薬品控除(約1500品目)

1年間に購入した医薬品1万2000円を超えた金額(限度額8万8000円)を所得から差し引くことができます。



今、一番進めなければならぬことは、減少を続ける農業者が農業を続けていけるような施策を講じることです。行政庁から独立した地域の農業を守り、発展させる農業委員会を切に望みます。

特定一般用医薬品等購入費を支払った場合は、医療費控除の特例として、平成30年から34年の5年間に個人の市町村民税に限り、総所得金額等から控除することを設置。

本来病院で処方されるべき医薬品を自主服薬と称して推進することは、市販薬を服用して、医者に行かず手遅れになることも想定されます。今回の医療費控除の特例を受けるには、健康診断や予防接種などの中で、1つだけ受けていれば、この控除を受けることができます。インフルエンザの予防接種を受けているだけでも対象。服薬は、あくまでも医師の判断を原則にした医療制度を守り、発展させることが求められています。医療費の削減のための医療費控除特例は、やめるべきです。(医療費控除とどちらかの選択)

下記の理由から、左記の議案に反対しました。

- ① 一般会計補正予算
- ② 市職員の給与に関する条例
- ③ 市長、市議の選挙における公費負担に関する条例
- ④ 特別会計の補正予算などが審議されました。

十二月議会報告

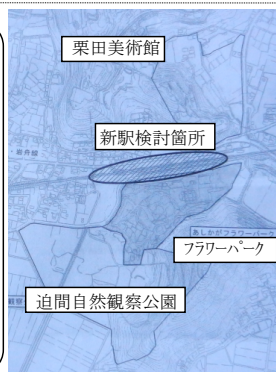
医療費削減のための
医薬品控除はやめよ!

農業委員会の
公選制廃止!

特定一般用医薬品等購入費を支払った場合は、医療費控除の特例として、平成30年から34年の5年間に個人の市町村民税に限り、総所得金額等から控除することを設置。

本来病院で処方されるべき医薬品を自主服薬と称して推進することは、市販薬を服用して、医者に行かず手遅れになることも想定されます。今回の医療費控除の特例を受けるには、健康診断や予防接種などの中で、1つだけ受けていれば、この控除を受けることができます。インフルエンザの予防接種を受けているだけでも対象。服薬は、あくまでも医師の判断を原則にした医療制度を守り、発展させることが求められています。医療費の削減のための医療費控除特例は、やめるべきです。(医療費控除とどちらかの選択)

今、一番進めなければならぬことは、減少を続ける農業者が農業を続けていけるような施策を講じることです。行政庁から独立した地域の農業を守り、発展させる農業委員会を切に望みます。



突然の新駅設置方針、富田駅からわずか1kmの場所に「あしかがフラワーパーク」の隣接地に建てるために当事業者にも負担を求め、担はるべきでない」と指摘すると「負担は求めない」、主目的は、東部地域の土地利用政策の推進と産業、雇用などの振興を図っている、ではなぜ、富田駅前を早くから、着手しなかったのか、渋滞の緩和になるのかなど市民からも疑問の声が上がり、新駅の必要性が問われる事業となりました。

- JR両毛線の富田駅西1kmに
新駅(フラワーパーク北)を設置!
- 1月16日(月)市当局より新駅についての説明が行われました。主な内容は次の通りです。
1. 新駅の目的
 - ① 足利市及び佐野市の幹線道路の交通渋滞緩和策。
 - ② 足利市及び県南地域の産業・観光の振興を図る。
 - ③ 足利市東部地域の土地利用政策を推進し、産業の振興をはかる。
 2. 総事業費15億円
 - ① 駅舎等11億円、道路等4億円
 - ② 3者共同事業
 3. 今後の予定
 - 足利市、JR東日本、栃木県
 - H30年3月開業、同年4月駅前広場整備等

一般質問

1. 環境問題

徹底したごみ減量で 小規模の新焼却場を！

おぜき：ごみ処理量をH27年度を起点に9年後のH36年に15%削減を見込みました。ごみ減量を強化しているが、もつと市民と協働で減量できるのではないかと。当局：ごみ減量の取組みとしてアクションプログラムを中心に分別の徹底をお願いしている。生ごみの水切り、紙類の分別を自治会、老人クラブ、女性団体等に直接出向き、ごみの分別・減量と呼び掛けている。

おぜき：ごみの削減目標15%では、これまでの人口減少による削減（ごみを30%削減目標（100t日）をたてれば、新焼却場の規模を大幅に縮小できるのではないかと。当局：新焼却炉は、稼働率・整備点検を見込み、全国の標準的計算により、1700tの炉が必要。

ごみ処理量と人口の推移

H21年60000t 157000人
H27年51000t（-15%） 150000人
ごみ処理量削減目標と予測人口
H36年43000t（-15%） 138000人

おぜきの新焼却炉提案

H36年36000t（-30%） 138000人
140t以下/日・70t以下/2炉

現焼却炉 300t/日・100t/3炉

新焼却炉構想 170t/日・85t/2炉

おぜき：H21年6月に生ごみの減量化・有効利用と温室効果ガス削減の目的で生ごみリサイクルについての調査研究を足利工業大学へ委託し、提言書が出されているがこの結果をどう論議し具体化したのか。

当局：プラントによる生ごみのたい肥化、メタンガス化のための新たな施設の導入など、提言・プラントの導入は、生ごみの更なる分別収集など、コスト面や生成物の処理先などの課題で、具現化は難しいと判断。

ごみ減量に対する取り組みがあらゆる方面から求められている時に市民への働きかけも不十分で、大型焼却場建設を先行する回答となりました。

小俣処分場問題は、市の責任重大！

おぜき：小俣処分場の地権者は、内容証明で、湧き水対策、賃借権の範囲、測量費の負担を主張しているが、市はそれぞれどのように対応してきたのか。

当局：双方の見解には大きな隔たりがあり、合意に至ることが見込めないため、民事調停等の法的手続きに入っている。

地権者側から、内容証明がくる以前の対応の不透明さ・裁判に訴えたこととの市側の対応は、埋立最優先の立場を放棄したのも同然の回答となり、改めて市の責任の重大さが露呈されました。

2. 生活路線バスの充実を 河南・名草線の路線バス 増便に1360万円！

おぜき：御厨線（右回り）の足利赤十字病院8時40分発の路線が乗客が満員（9人）で、待機タクシーを待ちきれず、乗車をあきらめる事態も発生しているが、対応を考えているか。

当局：河南地区に乗り入れている地域もあり、市全体のバスの見直しの中で、市民の満足度が高まる見直しが必要。

おぜき：河南・名草線の路線バスを1台増便すると1360万円かかるとのことだが、増便する考えはないのか。

当局：全体の見直しの中で、考へ市民の足として、路線バスが重要な役割を果たしている。河南・名草線は、9人乗りのワゴンバスとなっており、1台の増便の必要性を明らかにしましたがあくまでも見直しの中で、対応すると消極的な回答となりました。（契約更新時期：H31年）

3. 社会保障としての施策の 充実へ

総合事業は、限度額設定！
サービス抑制とならないか？

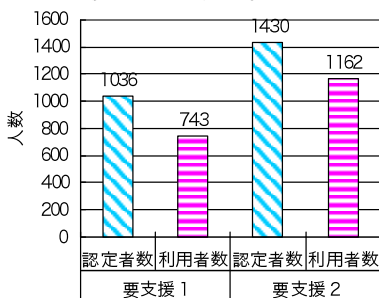
おぜき：介護予防・日常生活支援総合事業の実施にあたり、費用の効率的な配分により、介護保険制度の安定的・継続的な運営を図るとは、介護保険が担ってきた役割をどのように評価するものか。

当局：高齢者の介護を社会全体で支える仕組みとして創設。高齢者介護の中核として定着・発展してきた。

おぜき：平成29年度から、介護保険から同総合事業へ移行する居宅介護予防サービス（訪問・通所）を要支援者1、2の方（新たな対象者も含む）は、これまで受けてきたサービスが受けられるのか。

当局：要支援1、2の方が使っているサービスの範囲内が前提で利用できる。

要支援者1・2の利用状況（2016年8月現在）



新ごみ焼却場の 建設に126億円？

昨年の12月22日「足利市一般廃棄物処理施設整備基本構想」について当局の説明がありました。

*施設の現状

稼働後33年経過、経年劣化、省エネルギー化、規模の適正化、焼却残さの削減、リサイクル率の向上が求められる。

*建設予定地

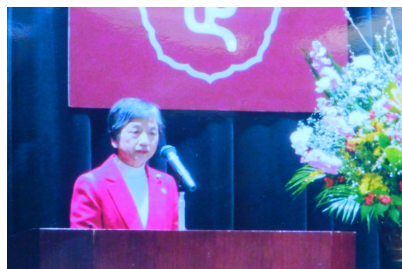
現在ある南部クリーンセンターの用地及び東側の地域

*処理方式は、左記から選択 スロー方式

ガス化溶融（シャフト式）
ガス化溶融（資源化）

*概算事業費

新焼却施設 98～126億円
新リサイクル施設 14億円



2017年1月8日成人式にて（山辺・矢場川地区）

再質問のなかで、同等のサービスを受けられるとしてきた総合事業の限度額は、保険給付費の3%なっていることを明らかにしました。サービスを抑制にはたらく危険があります。高齢者が希望し、必要とするサービスが受けられるように注視してゆきたい。



2017年1月19日「総がかり行動」の皆さんとともに！

ごみ減量という市民との議論も不十分な中、100億円を超える多額の建設費など新焼却場とリサイクル施設の概要案が示されました。以前から、リサイクル施設が狭いために回収できないとしてきた白色トレイもリサイクル施設ができて回収しないということ。ごみの減量を目指した焼却場建設を時間をかけてすすめるべきです。市民生活が大変な時にどの事業を優先させるか考え、計画的な対応が求められます。